

地表を、草木を、うつすらとした雪が覆っている。ただ、地色を消し去るほどの厚みはなく、薄い紗幕をかぶせたように、世界全体がわずかにくすんで見えた。

くすんでいるのは地面だけではなかった。ちらちらと舞う粉雪が、視界を霞ませている。

雪をかぶった硬い地面も、木々の葉を残した枝も、何もかもが灰色に固まった水に閉ざされて、その上に粉雪が幾重にも降り積もっていく。

何十年かぶりに訪れた故郷の地は、私のおぼろげな記憶をそのまま再現したような、寒々とした世界だった。

ここを現実たらしめているのは、氷を踏み砕く大勢の足音だ。そして、喧しい人の話し声。

騒音ともいえるその音たちに、世界が慌ただしく動き出す。鳥がどこから飛び立ち、ノウサギが逃げ出して行く。

私も騒音の元凶の一人ではあったが、その様子をどこか他人事のように見つめていた。

「はい、みなさん！ ちゃんと付いてきていますか？ ここからは足元が悪いですからね、注意してください！」

場違いなほど明るく甲高い声が、凍った草原に響いた。ぞろぞろと歩く人間たちの先頭を行く、小太りの女性の声だ。

同行して半日あまりでずいぶん聞きおぼえてしまったその声は、冷たい世界に良く響く。ツアーガイドとしてはこの上ない武器だろう。

私は、団体の最後尾で、踏み荒らされた新雪をゆっくり踏みしめて歩いた。

小旗を持った女性の姿は、あまり見えない。

遅れ気味になっているのは分かっていたが、急ぐ気にはなれなかった。

なにしろここは、私の故郷だ。すこしぐらいはぐれたところで、迷う心配はなかった。

私がゆっくり歩いている間に、先頭はそろそろ目的地にたどりついていたらしい。

雪をかぶった枝を払いのけた先では、一緒に旅をしてきたツアー客たちがぞろぞろと集まり始めているところだった。

「みなさん、集まってください！」

ガイドの女性が小旗を振っている。その視線がまっすぐ私に向けられていて、どうやら荷物になっているらしいことが分かる。

私は申し訳程度に目礼して集団の中に紛れた。小さな空き地に、集団が半円をつくった。そのうちの幾人かが、カメラを構えている。

私はそのカメラの先を追った。目の前に、古びた城がそびえたっていた。

そうだ、ここは城の前庭だ。

「みなさんお疲れ様でした。本日の目的地、ラファル城です」ガイドが声を張り上げている。

「ラファエル城は、今を去ること約七十年前、小王国の滅亡とともにその役目を終えた城です。この地にはかつて、小さな王国が栄えていました。けれど、当時吹き荒れていた民主主義の波は、この小さな王国も呑みこんだのです。この地でも民衆が武装蜂起しました」

ガイドの声は、北風に吹き散らかされてよく聞こえない。けれど私にはどうでもいいことだった。

「王城は焼け落ち、王家の人々は城と運命を共にしました。人々は都を捨て、新しい民主国家を立ち立てました。今かつての栄光の面影を残すのは、この城だけなのです」

そんなことは知っている。燃え崩れる城の熱さを、私はこの肌で感じた。

王都を捨てる民衆に紛れて、手をひかれて歩いた道のりのつらさも忘れてはいない。

「今この城は、かつての歴史を伝える場所として、一般に公開されています。城は終戦時のまま保存されており、王家が集めた財宝、絵画、これらも当時のまま展示されています」

誰かがため息をついた。カメラのシャッターを切る音が、いっそ耳障りなほどだ。

かつての王城を巡る歴史ツアーというのが、昨今の流行りであるらしい。

同じセスナ機に乗ったツアー客の中には、新婚旅行らしい若者の姿も、大きなカメラを担いだ老夫婦の姿もあった。

彼らにとつて城の辿った歴史は観光の一部なのだろう。きつとそこに暮らしていた人々の存在も、彼らを楽しませるスパイスの一つにすぎないはずだ。

けれど、私はそれに腹を立てるつもりはない。

こんな雪に閉ざされたちいさな廃墟を訪れるには、こんな酔狂な観光客のツアーに紛れるしか方法がなかったからだ。

ガイドの女性が歩きだした。

ぞろぞろと続く集団の最後尾について、私も七十年ぶりに城に足を踏み入れた。

受け付けを済ませたガイドは、玄関ホールで再度私たちを集めた。カラー刷りの小冊子が一部ずつ配られる。この城の案内図らしい。

「皆様お待たせいたしました。これから城内を見学していただきます。自由見学といたしますので、三時間後、この場所にお戻りください。帰りの飛行機の間もごさいますので、集合は時間厳守でお願いします。写真撮影等禁止されている箇所もありますので、係員の指示に従っていただくようにお願いします」

私は、案内図に目を落とした。

南側中央玄関ホールを起点に、各展示室と展示内容が示されていた。

ただ、城の右翼に当たる部分は灰色に塗りつぶされ、立ち入り禁止の表示が赤く上書きされている。